

## ワンポイント知識

## 個体識別番号の役割

国内で飼養されるすべての牛の両耳には、十桁の個体識別番号を表示した耳標を装着します。この個体識別番号により生産から流通・小売りに至るまで追跡することができるとされています。何か問題が起こった時に、個体識別番号をたどって原因を究明することができます。また、問題のある商品の回収を最小限の範囲で迅速に行うことができます。

## 文明開化の第一人者 第一号 外人墓地に眠る異色の成功者

文明開化の明治のはじめ、横浜は日本の最先端を走っていた。

陸蒸気、製糸工場、ビール、製氷所、パン屋、異人館、親善野球、女学校、写真屋にはじまっ  
て、海外新聞の発行、公共水道、ガス灯、公衆便所（公同便所といった）、乗合馬車、ヘボ  
ンの目薬に至るまで、横浜の「西洋文明事始め」は枚挙にいとまがない。

そんな「文明開化第一号」のひとつが「横浜山手外人墓地」で、その一角8地区に眠るの  
が「肉屋のカービー」。ことE・C・カービー（一八三六〜八三三）、すなわち、横浜でわが国  
最初の肉屋を開業した英国人である。

彼が生まれたのは、英国はウースターシャー、ストーアブリッジ。幼くして中学校の校長  
だった父を失い、親類縁者も相次いで死亡。自らも熱病のため聴力を失い、教会の孤児学校  
に入れられた。

薬局奉公など苦難の少年期を送ったあと、アメリカに渡り、各種の職業を転々、一八六〇  
年、新天地を求めて中国に渡った。上海で薬局を開業、その後、寧波（ニンポー）に移って  
倉庫業や用船業にも手を広げ、いずれも成功してホテル業を営むほどになった。

しかし、当時の中国は、ヨーロッパ各国の侵略があいついで景気下降の時、カービーはい

ちはやく中国を見限って、開国直後の日本に着目した。彼が横浜に足跡を記したのは慶応元  
年（一八六五）、ただちに居留地八十五番を借り入れたのだった。

当時、わが国は、まだ表向き肉食禁制で、来日の外国人をもっとも悩ませたのがこの肉の  
入手法。カービーはいちはやくそこに目をつけ、ためらうことなく肉屋を開業する。

彼が横浜に来た慶応元年は、幕府が同市の北方村小港にわが国で初めての「屠牛場」をつ  
くった年で、それまで「異人」たちの口にする肉は居  
留地内で解体され、肉をとったあとの骨や皮などがあ  
ちこちに捨てられたり、解体の途中の手負いの牛が暴  
走したりと、珍事や苦情が絶えなかった。

そこで、幕府は各国の要望を容れと畜場の開設に踏  
み切ったのだが、カービーはさっそくその一角を借り  
入れると、ハマで最初の肉屋を開業したのだった。以  
後、明治三年には「バンク・ビル」という金融業を兼  
ねたストアビルを建てたり、神戸に移ってレンガ造り  
の最新の商館を開いたりしたが、明治十六年、四十七  
歳の働き盛りのさなかに世を去った。外人墓地に眠る  
知られざる先覚者である。